

一般社団法人 ぷれジョブ 代表 西幸代 様 東京・調布ぷれジョブの会代表の水戸和幸と申します。日頃からお世話になっております。この度は、調布ぷれジョブの会の解散報告でご連絡しました。我々、調布ぷれジョブの会は、平成28年度に当時の都立調布特別支援学校の井上美保校長の指示のもとで立ち上げられ、本年度7月まで活動を継続してきました。これまで、近隣企業および多くのサポーターの協力のもと、のべ9名の児童・生徒がチャレンジドとして参加し、皆が大きく成長して巣立って行きました。その一方で、ぷれジョブのようなお仕事体験をより多くの児童・生徒に体験させて欲しいとの保護者やサポーターの声を多く頂くとともに、学校中心の事業であったことから、一部の先生方への負担も大きくなってきました。そして、昨年9月の「全国ぷれジョブ連絡協議会」の法人化を受け、今後の調布ぷれジョブの会の在り方について、協議を続けてきました。結果、学校事業として「ぷれジョブ」を継続させることは難しいとの判断に至りました。そして、地域資源を活用した形での「学校教育」の一環としてお仕事体験を実施する方針となりました。内容としては、学校のキャリア教育の中で週1回、中学部の生徒5～6人が近くの企業に行き、1時間程度のお仕事体験をするというものです。ぷれジョブのように毎週、継続しての体験は難しい状況ではありますが、中学部の生徒全員が年に数回は体験できるように準備を進めていると伺っています。以上の方針転換により、7月の定例会において、調布ぷれジョブの会を解散することが決定しました。会の立ち上げから運営方法等についてご助言、ご協力頂いた西先生を始めとする「全国ぷれジョブ連絡協議会」の皆様にご相談もなく進めたことは、大変心苦しく思っている状況です。誠に申し訳ございません。これまでの多大なるご指導とご支援に心より感謝申し上げますとともに、「一般社団法人ぷれジョブ」の益々の発展を祈願しております。長い間、誠にありがとうございました。

お返事・子どもたちの居住地の中で行ってきた「学校がかかわる事業」から「学校教育のキャリア教育の一環」として実施するということですね。ぷれジョブの方法をヒントにして、一週間に1時間、毎回とまではいかないけれども、在籍する子どもたち全員を地域に出していくということ、変更により先生方の負担が改善されるということ、受け止めます。現場の先生方の長きに亘る話し合いに敬意を表し、その結論を尊重いたします。今後は、団体登録はせず「お仕事体験」として進められる趣旨、賛同いたします。・学校、企業、家庭、ジョブサポーターさんたちの4者がお互いの持ち場に任せて、子どもを管理せず、地域で「はたらく」「遊ぶ」とおして、子ども自らが地域の人々と出会う。自然と親離れ子離れを促進する環境を醸成して、新たな関係性を創り出すことがぷれジョブの肝ですので、学校の「個別の指導計画」のもとに行われる活動とぷれジョブ®とは趣が異なりますので、名称変更も同意いたします。・一般社団法人ぷれジョブの「サポート会員・社員」は「個人」の参加です。団体登録して活動している方に資格がある法人ではございません。むしろ、活動していない方や活動を終了した方で趣旨に賛同いただける方には、これにて関係が切れてしまうのではなく、ぜひ引き続き、法人の財政基盤を支えていただき、新しい法人の取り組みにも個々みなさまがた、関心を持ちながらゆるくつながっていただくことを希望いたします。ご丁寧なご連絡ありがとうございました。調布ぷれジョブの会の皆さまに法人のお願いを伝えていただければありがたいです。今後ともよろしく願いいたします。HPのQ&Aに載せさせていただきたいと存じます。ご了承くださいませ。